



## こどもたちが育む学びの種としての建築の研究

総合理工学部 教授 千代 章一郎

建築学の立場から、こどもたちの生活環境について、こどもたち自身が考え、こどもたち自身がつくる。こうした学びの場の構築を、研究室の学生、そして小学校の教諭、児童、あるいは保護者と一緒に実践しています。これまでは、松江市立持田小学校、竹矢小学校の授業の一環として、また島根大学の「サイエンス・カフェ」を通じて、「家」の模型製作のワークショップを継続的に実施し、できるだけ身近にある材料で、できるだけ少ない道具で、できるだけ豊かな空間をつくる仕掛けを研究してきました。

牛乳パックや段ボールというどこにでもある再生素材を使って、窓を開け、床を張り、家具もアレンジして「家」をつくる。そこには、自然の風雨や、太陽の熱が関わってきます。材料によってはできることとできないこともあります。自然災害もあり、他の家とのつながりも大切です・・・。建築をつくることには、無限の学びがあります。こどもたちも大人たちも一緒になって持続可能な未来の「家」の研究を進めています。

